

第2回 岐阜県農畜水産業活性化協議会 開催結果（要旨）

1 日時：平成26年11月18日（火） 10時30分～12時00分

2 場所：県庁4階 特別会議室

3 出席者

（委員等）

荒井 聡	岐阜県農政審議会
大野 二三	岐阜県女性農業経営アドバイザーいきいきネットワーク
大前 武司	岐阜県土地改良事業団体連合会
岡田 忠敏	岐阜県農業協同組合中央会
奥田 一茂	（一社）岐阜県畜産協会
加藤 謙治郎	（公財）岐阜県産業経済振興センター
神野 達雄	日本貿易振興機構岐阜貿易情報センター
河原 洋之	生活協同組合コープぎふ
桑田 博之	岐阜県農林水産物輸出促進協議会
酒向 貞夫	岐阜県漁業協同組合連合会
鷺見 郁雄	岐阜県農業会議
土屋 厚子	岐阜県J A女性連絡協議会
枋本 弘明	岐阜県指導農業士連絡協議会
富田 成輝	岐阜県市長会
森本 豊子	アグリ・エンジョイネット岐阜
和仁 松男	岐阜県農業参入法人連絡協議会

以上16名

（国）

水間 史人	東海農政局長
下方 芳美	東海農政局経営・事業支援部長
阪口 正博	東海農政局農村計画部農村振興課長

（県）

古田 肇	知事
平工 孝義	農政部長

4 議事

- ・農業改革の検討状況について
- ・農地制度のあり方について
- ・意見交換

5 委員発言：別紙のとおり

(別紙)

第2回 農畜水産業活性化協議会（H26年11月18日開催）発言要旨

〔意見交換〕 ◆農業改革の検討状況について

○農協中央会 岡田 忠敏 会長

- ・全中会長のもとに、諮問機関として総合審議会を設置し、8月から10月までにかけて、各県、いろいろな人の意見を聞いて、JAグループの自己改革案をまとめた。
- ・県独自でも、農業関係者、学識経験者等の意見を伺い、全国に意見を上げた。
- ・中央会制度では、「全中がいるから、農協が自由に経営できない」ということが争点であるが、結論的には、従来の法律上に位置づけた中央会でないと問題がある。
- ・中央会が一般社団法人になると、監査、代表、総合調整機能、特に代表、調整機能は弱くなると感じている。
- ・監査機能については、公認会計士による監査は、大きな農協ではコストがかさみ、農協経営に負担となる可能性がある上、合理性、合目性の観点で欠けている。
- ・中央会は、農業所得の増大、生産者の拡大、新規就農の確保等に向けて、地域の農業振興を図るため、農協法上の自律的な制度として生まれ変わる。
- ・全農が株式会社になると、農産物の等級に関わらず引き受けて、販売代金を生産者に精算するという系統組織の強みがなくなり、生産者が一番困ることになる。
- ・信用事業については、代理店になるか、統合するかは自主選択となったことから、農協、県信連が判断すればよく、県としては悪い状況にはない。
- ・経済事業については、買取販売の拡大と、安価な資材の供給が課題であり、全農の協力のもと、農協が努力していく。一方、経済事業の収支改善は、施設、ヒト、モノに、お金を多く費やしており、容易ではない。
- ・組合員のあり方は最大の問題。准組合員の利用量に一定のルールを設けられると、ライフラインや福祉等の事業から農協が手を引くことになり、中山間地域の疲弊に繋がる。
- ・人口減少の対応として、地方創生に向けて、農協が地域とともに生まれ変わっていくためには、准組合員の利用量は従来どおりとしたい。併せて准組合員に、運営参画してもらうことを前向きに検討していく。

○県農業会議 鷲見郁雄 会長

- ・選任方法の見直しについては、選任制に移行しても、今まで以上に地域代表としての性格が確保されるような制度を考えていく必要がある。
- ・農地利用最適化推進員については、やるべきだと考えている。岐阜市では、この推進員に当たる農政推進委員会という組織を、農業委員会の下に作って、取り組んでいるところ。
- ・全国農業会議所については、組織があつてはじめてトータル的な事業展開ができるのであり、今までどおり残していただきたい。
- ・行政庁への建議が最大の問題であるが、農業者の代表という位置づけを考えると、法律に基づく業務から除外されることについては断固反対である。

- ・農業委員数については、小学校区に一人の委員が適当であると考えている。

○県農業参入法人連絡協議会 和仁 松男 会長

- ・農業関係の組織や団体が、農業者に寄り添っていないような雰囲気があるから、こういう意見が出るのだと思う。もう一度、何のために組織ができたのか、原点に戻って考えたらどうか。
- ・営農指導では、もうちょっと現実的な指導をしていただきたい。
- ・農業委員会は、本来の役割を果たしていないと思う。
- ・農業会議には、農業者向けの情報を整理して、一本化してもらいたい。

○県農業会議 鷲見 郁雄 会長

- ・農協は、中央会、系統組織があったから、県下の農協が今まで不正や倒産をしなかった。
- ・今でこそ大規模に農業を営んでいるところもあるが、農協の指導のもとに始まって現在があるという観点から、農協はもっと評価されるべき。
- ・県下の農業委員会、農業会議の委員の考え方を一定にしていく必要がある。

○コープぎふ 河原 洋之 執行役員

- ・農協の改革検討会議に参加し、単協の意見を聞いたところ、中央会には今の機能を果たしてほしいという希望が非常に高かった。
- ・農協は、協同組合だからこそ、現在のような地域の中でいろいろな活動ができると思っているので、中央会には協同組合として存在し続けてほしい。

○県指導農業士連絡協議会 朽本 弘明 会長

- ・農業改革について、組織そのものは今までどおりで良いと思うが、時代の変化に合わせて、農協も全農も変わっていかないといけない。
- ・農業が弱体化してはいけないという観点から、担い手の確保について、全体を見据えながら改革をしていただけたらありがたい。
- ・農業委員については、地域の事情の中で、地域によってかなり格差がある。平坦地と中山間地の農業委員の意識をどうすり合わせていくのが非常に大事である。

〔意見交換〕 ◆農地制度のあり方について

○岐阜県市長会 富田 成輝 可児市長

- ・市長会の代表で来ているが、意見をまとめているわけではない。
- ・可児市では、農水省の意見にあるように現場と距離を置いた判断が必要という観点から、権限移譲を受けてこなかった。
- ・市町村においてもしっかり判断できるということで、現在、移譲を受けられるものについてはしっかり受けた上で、今後とも市町村の権限の拡大という方向で検討していただきたい。

○県農業会議 鷺見 郁雄 会長

- ・農地転用については、関係者による農地調整会議を経て、農業会議の常任会議に諮問される。
- ・2段、3段の構えをとりながら運用しており、今まで以上にしっかりすべき。

○県産業経済振興センター 加藤 謙治郎 専務理事

- ・経営という視点から言えば、ヒト、モノ、カネ、情報が非常に大事である。
- ・経営面から農業者が元気になるためにはどうしたらよいかという視点でこの改革が進められるべきである。

○県 古田 肇 知事

- ・知事会では、ほとんどの知事が、地方創生の突破口として、農地制度のあり方について問題提起している。
- ・東海環状の西回りを急いで造ろうとしているが、事前に工業団地の造成など準備を進めていた東回りに比べ、西回りでは周辺地域の有効利用策があまりない。
- ・高速道路をどう生かすかということだけではないが、農業用地、農地制度をどうするかということと大きく関わってくる問題である。
- ・知事会では、地方創生、規制緩和、地方分権の最大の課題は、農地制度とハローワークということで、議論やさまざまな提言がなされている。
- ・地方6団体が、この問題を特記して取り上げ、地方分権の最大アイテムの一つとして、「国のレベルでやらなければうまくいかない」のか議論されている。

○県指導農業士連絡協議会 朽本 弘明 会長

- ・岐阜県は、かなり高低差のある地域であり、どこに主体性を置くか。
- ・平坦地域は、工業団地など農地のあり方について前向きに検討できる。
- ・中山間地域の農地をどうするのかを含めながら議論してもらいたい。

○県女性農業経営アドバイザー連絡協議会 大野 二三 会長

- ・担い手としては、道路開発に伴い不整形の農地が増える気がかり。

○農協中央会 岡田 忠敏 会長

- ・中間管理機構の状況から見ても、中山間地域の農地をどうしていくのか考えていかないと、農地が荒れ、農村は疲弊していく。
- ・農村は多面的機能を持っており、県民の理解が必要である。
- ・農地制度については、地方創生という大きい部分で考えていく必要がある。

○岐阜県市長会 富田 成輝 可児市長

- ・経済的にメリットがある農地は、手を挙げてくれる企業があるが、中山間地域の広い面積ではない農地にはどうしても手を挙げていただけない。
- ・行政と農協とが一緒になって、そういうところを守る方策を考えていかないと

ない。

- ・農業と一口に言っても、経営的にやっていけるところと、民間も手を出さないところをどう守っていくのかという議論は、根本的に違う。
- ・地域、中山間地をどうしていくかということ、しっかりと今後の日本のあり方として議論しないとイケない。

○岐阜県農政審議会 荒井 聡 会長

- ・農業団体、組織のあり方については、競争力のある効率的な経営体をいかに作るかが議論の出発点で、そのために組織をどうしていくのかという展開である。
- ・このような経営体は、特に中山間地域において、そう簡単には育成できない。
- ・岐阜県の農業を守って、活性化していく上で、現行の協同組合の仕組みというものが、各単協さんからもそれなりに期待されているという事が確認できた。
- ・一方で、販売力の強化というような課題を抱えており、この機会に、時代に適応するような組織再編を確実に行っていただきたい。
- ・中央会がJ Aグループから外れて、J Aグループがチームとして機能が発揮できるのかどうか非常に大きな課題であり、慎重に議論を進めないといけない。
- ・農地制度については、地方創生の起爆剤と期待されている一方で、非常に慎重な検討を進めていく必要がある。
- ・農地を有効に活用しつつ、農業と工業のバランスをとりながら、地域の発展を図るため、国と地方が連携を密にして、農地の利用のあり方をしっかりと議論してもらいたい。

○東海農政局 水間 史人 局長

- ・農協改革とか農業委員会改革、農地制度のあり方などの議論を聞かせていただいたので、本省に伝えていきたい。
- ・いずれも、現在、政府内で検討中であり、大詰めを迎えている状況。農政局は、検討プロセスに直接関与していないので、私のコメントは基本的な考え方である。
- ・農協改革については、11月7日に、会長から農林水産大臣にJ Aグループの自己改革案の説明があり、大臣は連合会が単位農協をサポートする役割が明記されている点を評価した。
- ・一方、新たな中央会が行政的な監査権をもつことが自律的な新たな制度になっているのかどうかという点、農業振興だけでなく、農家以外の地域住民を含めた地域振興と一体となった機能を継続して発揮するということが農業者の所得の増加に繋がるかどうかという観点からさらに検討が必要ではないかと述べている。
- ・農水省としては、担い手から見て農協が農業者の所得向上に向けた経済活動を行なえるような改革を志向している。農業委員会についても、担い手から見て地域の農地利用の最適化が進むような改革を志向している。
- ・農地転用の関係については、平成21年に農地法を改正した際、5年後を目途に、農地の確保のための施策のあり方とともに農地転用や国の関与の在り方について検討するとされており、今年はその節目の年になっている。
- ・農地転用制度について、国と地方とで議論を密にするべきではないかということで、

東海管内においても、本年末には協議の場を整えるべく準備を進めている。

- ・農地の総量については、食料安全保障、食料自給率の維持・向上との関連でどう考えるかということで、国としては慎重な姿勢を打ち出している。
- ・中山間については、農地中間管理事業を新しく作り、機構による公募をして、中山間地での農業への参加というような可能性を探っているところ。
- ・企業参入を念頭に、企業参入フェアを実施し、中山間を含めた農業への企業等の参入の可能性も探っているという状況である。

○県 古田 肇 知事

- ・今日の議論については、それぞれに主張があるけれど、大詰めに来ており、政治情勢を別にすれば、結論を出す段階にきていると思う。
- ・少し前に西川大臣にお目にかかる機会があったが、大臣は閣議決定をきっちり制度化するというを明確におっしゃっておられた。
- ・今日は、改めて、岐阜県の皆さんがそれぞれの立場でどのようにお考えか、それを私なりに十分に理解して、農水省、政府、与党に伝えていこうと思う。
- ・正直、まだまだ議論がかみ合っていない中で、大詰めに迎つつあるということで、積極的に機会を見て申し上げていきたい。
- ・高齢化や担い手の問題、規模や競争力の問題、あるいは中山間地を含めた現場の実情の問題にきちんと行き届き、成果があがるような制度改革になったと、みんなが思えるような方向に持っていけないとなかなか意味がない。
- ・時代の変化の中で、そういった目的を叶えるために、どういう組織体制やあり方が最適かということで議論が行われていると思う。
- ・その中の一つの論点として、これまでの手法がどうだったかという評価もあるし、国対地方との分権の議論の中で、農業政策や農業体制の中での国全体としての方向付けと現場を踏まえた地域ごとの実勢をどういうバランスで組み立てていくのか、をきちっと見極めていく必要がある。
- ・農地の問題は、農業振興だけでなく、地域振興全体あるいは産業振興とのバランスをどういうふうにとっていくのかや、平場と山場の地域ごとの実情をどういうふうに汲み取って整理をしていくのかという論点もある。
- ・御指摘があったことをきちんと認識した上で、こういう仕組みがいいんだと、これでやってみようではないかという結論に辿りつけるのが理想であり、今日いただいた意見は、機会をみて積極的にお伝えしたいと思っている。
- ・この大詰め感と政治情勢の流動化がどうなるのか、見えにくくなっているのか、この問題が政治的な争点としてテーマになるのか、ならないのかも含めて、よく見極めながら、言うべきことはきちんと言っていこうと思う。
- ・今日、いろいろな角度から御議論頂いたので、今、申し上げたような観点から整理していく。